

活動報告書

報告者氏名：小島 美和

所属：東大阪市立花園北小学校

記録日：平成30年2月17日

キーワード：自信、自己肯定感、学び方、書き支援、安心、見通し、SNS、小中連携

【対象児の情報】

- 学年 小学校6年生 男児
- 障害名 自閉的傾向が強い
- 障害と困難の内容
 - 自閉的傾向が強く、市の療育センター内診療所に定期的に通うも診断にはいたっていない。
 - 知的な遅れは見られないが、高い言語理解と知覚推理に比して、ワーキングメモリと処理速度に大きな課題を抱えている。(2年前のWISC-IV検査より)
 - 人の気持ちを読めないことが多い。
 - URAWSS IIの結果、

課題	評価	字/分 (平均)
読み課題	A (全問正解)	635字 (445.5字)
書き課題	C	11.7字 (31.3字)
書き 介入課題	B	18.3字

1標準偏差
以上高い

読み速度に、書き速度
(作業速度)が全く追
いついていない。

書字活動において3倍近く時間がかかることがわかる。

- 書き写し、自分の思いを書く両面において時間がかかる。

【活動進捗】

・当初のねらい

- ①落ち着ける場所で、自分なりの学習方法を見つけ、自信をつけていく。
- ②「これならできる」と安心して登校できるようになる。

・実施期間 平成29年4月～平成30年2月

・実施者 小島美和

・実施者と対象児の関係 特別支援教育コーディネーター・前年度までの通級指導担当者として

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

①学習面（特に「書くこと」）について

・学年相当の内容を理解する力を持っており、語彙力も高い。「書く」量の少ない理科や社会の単元ごとのカラーテストでは制限時間以内に書くこともでき、8割以上正解している。

・「書くこと」について極端な苦手意識を持っている。手が不器用なことに加え、「枠の中に体裁よくおさめる」「マスを余らせない」などのこだわりが強く、それを考えながら書いたり、消しては書いたり、他児と比べて3倍以上の時間を要することになる。（URAWSSⅡでも3倍かかることがわかる。）

・国語のテストや長い文章を書く場面では、枠の中におさめようとしても、はみ出してしまうことが多く、はじめからあきらめてしまうことも多い。

・3年生より宿題等の作業量は減らしているが、いろいろな課題を少しずつ減らすと、ノートに空白のマスを残したまま中途半端に見えるため不満そうである。計算ドリルとプリントの課題があるとすれば、「プリントをせずに計算ドリルだけすべて取り組む」という減らし方がいいと言っている。

・漢字学習ノートについて「練習回数を減らしたり、書く量の少ないプリントに代えたりする方法」を提案した時は「空白の部分がめだってしまう」のが嫌で拒否された。しかし昨年度末、iPadの「Key note」アプリを使ってまとめていく方法を提案するとすんなりと受け入れた。

・学校滞在時間が短いことと書字に時間がかかることで、課題が最後までできないことが増え、達成感を持ってないことが多い。

・iPadへの入力は、ローマ字やフリック入力もできないことはないが、五十音入力することが多い。

②集団参加、コミュニケーションについて

・昨年度まで通常の学級に在籍し、通級指導教室で週に3回程度個別学習を行ってきた。朝が苦手で、毎日遅刻しながらも、欠席することはなかった。しかし、昨年度11月ごろより登校しぶりが顕著になり、12月より、迎えに行っても登校するものの、通常の学級には入れず、学校生活のほとんどを通級指導教室で過ごすようになった。個別対応の必要から、今年度より支援学級に在籍し、学校生活のほとんどを通常の学級から離れて過ごしている。慣れ親しんだ通級指導教室が一番落ち着いた環境のようで、通級指導教室内の一画を自分の部屋として学習している。

・2歳年上の兄が昨年度9月より中学校に登校できていない。兄が起立性調節障害で午前中に起きられないことが多く、本児も起きる時間が遅めである。家でゲームをすることが多いが、遅くまで起きているわけではない。

・聴覚過敏で「うるさいところは苦手です。」と言っている。特に教室で学習する時にざわざわしていると気になり、集中できない。行事や学級活動のような内容であれば友だちと楽しそうに活動できるが、教科学習は静かなところだと、別室で活動している。

・人の視線を必要以上に気にしてしまい、遅い時間の登校に関しても何か言われるのではないかと、通常の学級に入りにくい。

- ・今年度はじめは、3時間目の前に電話をしてから、昼前後に登校することが多かった。
- ・午前中に腹痛や頭痛を訴えることが多く、そのとき5段階でレベルを表していた。
- ・学校行事・学級行事には参加しなければという気持ちが強いが、自分から学級に入りにくいため、その都度教員が迎えに行っている。いったん、行事に入ってしまうと笑顔で参加している。
- ・友だちと遊びたいという気持ちはっており、放課後、特定の友だちと一緒に遊ぶ時もある。
- ・自分の気持ちをことばで伝えることが苦手であり、人の気持ちもなかなか理解できない。そして、そのことを自覚している。

○その活動の具体的内容

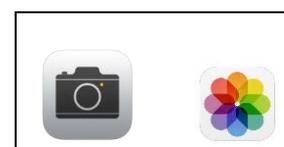
①自分なりの学習方法を見つけ、自信をつけていくために

- ・「NHK for School」を利用して、学習内容を理解する。
授業や実験のかわりに、学習を視覚的に補うために動画を見て学習する。
主に理科と社会の学習で活用
- ・自分で調べたことを「Keynote」にまとめていく。
新出漢字学習、社会まとめ学習で使用
「Safari」「常用漢字筆順辞典」「例解学習国語辞典」を使って調べていく。
- ・手書きでは時間がかかる課題について「タッチ&リード」「Phonto」でのテキスト入力で行う。
主に理科ワークで「タッチ&リード」を使用。
- ・テストをいろいろな方法で取り組みながら、「テストの受け方」を考えていく。
体調等によって、理科や社会のテストでも「タッチ&リード」を使用。
国語テストについては「Phonto」で縦書きテキスト入力。



②「これならできる」と安心して登校できるようになるために

- ・デジタル耳栓の使用
静かに学習したいときに、デジタル耳栓を着用する。
- ・「By Talk for School」の活用
毎週、毎日のスケジュールを受信し、見通しを持って登校できるようにする。
学校での様子を送ってもらい、学校にいないときでも楽しい場면을共有する。
家で取り組んだ学習課題を送信できるようにする。
スタンプや声での送信、フリック入力や音声入力による文章表現などの方法を用いて自分の思いや気持ちを伝えられるようにする。
- ・「カメラ」「写真」機能の活用
支援学級や通常の学級での取組みを動画や写真で撮影し、記録をとっていく。
記録したものを友だちと一緒に見て、今後の学習活動に役立てる。



○対象児の事後の変化

①自分なりの学習方法を見つけ、自信をつけていくために

「この方法」だったら全部できるんです！

・新出漢字学習・・・「Keynote」にまとめていく。もともと漢字が好きで1年生の時は「漢字マスター」と言われるくらい、成り立ちや部首について語っていた。ただ、漢字が複雑になってくると、正しく想起できない字が増えてきて、書くことは難しい。ただし、正しく選ぶことができるし、中学で習う漢字でも読めるものが多い。文作りも、自分で考えた文を書きたいという思いを持っている。少し難しめの熟語を作り、満足していることが多い。

蚕	部首	むし(虫)
	音読み	サン
	訓読み	かいこ
熟語	蚕糸・蚕室・蚕食 養蚕農家 蚕	
文	蚕糸は蚕の繭を煮て作る。	

縦	部首	いとへん(糸)
	音読み	ジュウ
	訓読み	たて
熟語	縦縦・縦糸・縦長 縦走 縦笛	
文	縦横無尽に走る。	

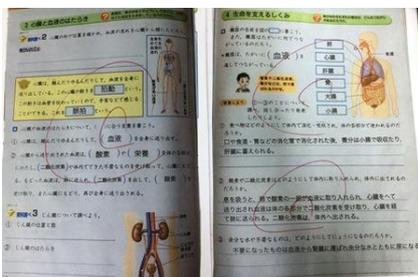
鉛筆で書いていた頃から、難しい熟語をかきたがっていた。iPadを使うと、難しいものも簡単に入力できる！

・社会学習・・・「NHK for School」を視聴したあとに、「Keynote」にまとめていく。入れる画像等は「safari」を使って検索し、トリミング加工をして挿入している。文は「重要語句集」「資料集」をうつしているものだが、大事なことを自分で選んで入力している。縄文時代から同じ形式でまとめることができ、自分のパターンもできてきたようで、見通しを持って作業ができる課題のようだ。



画像を検索して挿入。重要語句集や資料集から説明文をうつしている。

・理科学習・・・「NHK for School」を視聴した後に、ワークへの記入を「タッチ&リード」を使って行い、友だちとほぼ同じペースで学習できた。教科書も見ながら答えを記入し、自信のないところは答えを見て確認し、理解できている。



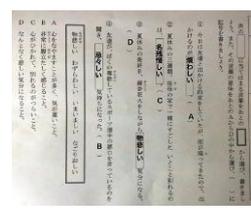
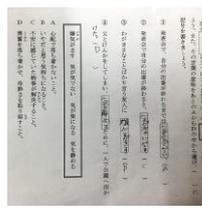
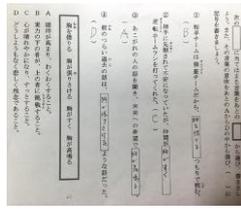
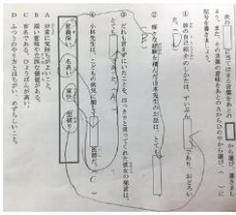
このワークへの記入は迷わずiPadを使用している。できればプリントアウトしたものをワークブックにのりで貼っている。

・算数・・・説明を聞いた後は計算ドリルの問題を一人で解けるようになった。他の児童より問題演習の量が少ないが基本的なことはおさえられている。計算力を高めるのが課題ではない単元については電卓を使用した。

・単元テストの受け方について考えた・・・同じようなプリントを使い速さを比較

速さは

速い ← 矢印方式 > 代筆 > 手書き > iPad での入力



読みのスピードに書字速度、作業速度がついていないもどかしさ

本人の気持ちとして、使用したい順番は

iPad での入力 > 矢印方式 > 手書き > 代筆

- ・誤字がない。
- ・枠の中に簡単に入れられる。
- ・字がきたくない。
- ・だれでも読める字
- ・修正しやすい。
- ・時間がかかってもやってみようという気になる。

- ・簡単だけど、きれいじゃない。
- ・項目が増えると混乱することもある。

- ・自分の字はちょっときたない。
- ・枠の中に入れられない。
- ・きれいに消せない
- ・やる気おこらない。

- ・自分でしたい。人にやってもらうのがいや。

※この取り組みをとおして二人で話し合い、次の点を確認した。

- ・意欲としては iPad を使ったほうが最後まで確実にできる
- ・ただ、解答が記号や単語だと、手書きも iPad も速さはかわらない
- ・解答が文章だと、手書きでは白紙になるので、ぜひ iPad を使用したい

その上で⇒⇒⇒小学校の単元別テストは「書く」量が少ないので、次の基本ラインで行うことにした。

- ・別室で行う
- ・国語の記述量の多い面のみ iPad を使用する
- ・ほかのテストについては基本は手書きとするが体調によっては要相談



「タッチ&リード」を使用したこともあったが、横書きのテストはほとんど手書きで8割以上とれた。

国語の読解テストは縦書き入力のできる「Phonto」を使用

②「これならできる」と安心して登校できるようになるために

学校に安心して学習できる場所がある。わかってくれる先生もいる。みんなの役に立つこともしたい！

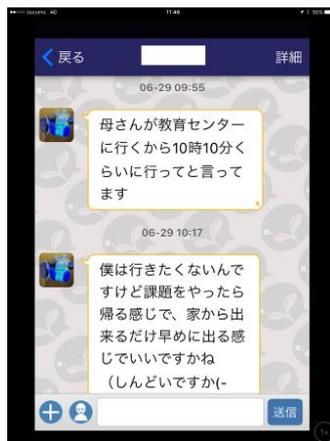
・デジタル耳栓を使用して、個別学習するようになった。テストのときなど集中して取り組みたいときや、大勢で過ごす活動（クラス行事やパソコンクラブなど）で使用している。耳栓をすることで、意識が高まることもあって、集中して学習できると感じているようだ。夏休みの林間学校のバスの中でもデジタル耳栓を使用して、落ち着けた。



・登校時間が早くなったわけではないが、自分で学習内容とその所要時間を考え、自分で決めた時間に登校するようになった。「By Talk for School」使用以降は登校しぶりによる欠席がなくなった。（発熱による2日間のみ。）2学期は皆勤賞だと喜んでいて。



朝は毎日スタンプであいさつ。家でしてきた課題も自分から送ってくるようになった。このアプリについては、本児がいるいる試して、変換しやすさからフリックで入力している。



自分のしんどい状況を説明したり、課題が終われば早退させてほしいなど、訴えてくる。早退も認めるようにすれば、安心して登校してくる。



「頭痛」「腹痛」スタンプがほぼなくなり、「OK」スタンプが増えてきた。

・家でできる課題をiPadにて行うことが出てきた。家でした場合、「By Talk for School」で必ず送信している。あまりにもつらい日は、頭痛や腹痛のレベルも送信して教員に伝えていたが、「痛い」スタンプが減り、「OK」スタンプの使用が増えてきた。毎朝送信されたスケジュールを見て、考えて登校している。夏休みや冬休みも、iPadで行った宿題を「By Talk for School」で送信している。

・通常の学級では、行事のたびに調べたり、記録したりする係りをまかされた。特に修学旅行では、iPadで大活躍。事前学習では情報係りとなり、宮島情報を一枚にまとめて友だちに伝えることができた。当日は平和記念公園で、あちこち記録用の写真を撮り活躍できた。たよりにされたことや友だちと一緒にまわられたことで、平和記念公園以降、友だちと楽しそうに過ごしている姿が印象的だった。



事前の情報として作成し、クラス全員に配布した。



平和資料館では、資料の撮影をたのまれていた。



修学旅行後に新聞づくりをした。「Keynote」で作成した。

・運動会練習に参加できなかったときは、練習動画を見て内容を確認した。本番が近づくとつれ、友だちと一緒に練習するために早めに登校することも増え、当日は演技、競技、係活動をすべてこなすことができた。陸上記録会やミニバス大会には記録係として参加し、クラスの一員として一緒に活動できた。



・支援学級の畑活動では、自分が案を出した「給食のねぎを植えなおして、育てる」活動やたい肥作りの記録写真を撮った。教員に相談されたことをiPadで調べて案を出すこともあった。また、育てたねぎを中学校区支援学級交流会の流しそうめん大会に持っていき、楽しむことができた。



給食のねぎの切れ端を植えて育てることを本児とその母が提案

そのねぎをもって、中学校区支援学級交流会へ。1つ上の先輩と会えて、ほっとしている様子。

中学校への見通しを持つために

・中学校への登校

1学期に2～3回の中学校登校では、少しだけ全体活動にも参加したが、主に支援学級で自分の学習スタイルを中学校の先生に見てもらった。夏休みのクラブ活動体験では、興味のある科学部に参加した。仲の良い先輩もいて、楽しく参加できた。

夏休み中にもかかわらず、科学部参加のために中学校に登校できた。



・中学校の先生の授業を受けた

研究大会の時に、全体授業を15分、個別の授業を30分受けた。事前に、小学校に中学校の先生がきて本児と一緒に時間を過ごし、どのような内容にするのか打ち合わせを行った。当日本児は体調が悪かったが、中学校の先生と楽しみにしていた理科の学習をすることができ、中学校を楽しみにする発言をするようになった。中学校側もどのように受け入れていけばよいのか、考えるいいきっかけとなった。



当日は小学校の教員はつけなかった。しかし、事前に中学校教員と児童と授業の流れを確認をしていたため、不安になるどころか体調不良の中、登校を希望して楽しむことができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○報告者の主観的気づき

「課題を仕上げられた」「役目を果たせた」ことを実感し、自信につながっている。

各教科の取り組みで課題を仕上げられ、目に見える成果物があることで、学習に対して前向きになった。朝から家で課題に取り組んでくることが増えた。クラスでも活躍できる場をつくることにより、友だちと一緒に過ごせる時間が増えた。

「学校生活での見通しが持てる」「これならできる」と自分なりの生活リズムの中、安心して登校できる。

屋前後の登校だが「登校するのが当たり前」になってきている。「By talk for school」でのやり取りを通して、自分から伝えてくる場面も増えている。毎日の活動内容や課題量にあわせて登校し、自分なりの生活リズムができあがっている。

○エビデンス

単元別テストにはすべて取り組み、8割以上正解



欠席の激減

4月、5月の欠席は、登校しぶり
「By Talk」使用後の欠席は6月の発熱による欠席のみ

月	4	5	6	7	9	10	11	12
欠席	2	3	2	0	0	0	0	0
遅刻	12	16	17	12	21	18	20	16
朝から出席	1	0	2	2	1	1	0	0

行事の時は、迷惑かけないように登校してくる。
校内行事では、開始時刻までに登校できるようになった。

○今後に向けて（中学校進学に向けて）・・・中学校との協議より

各教科の学習方法について

- ・課題量については確実にできる量を提示することになっている。
- ・学習場所は支援学級の本児が落ち着く場所で、一日のほとんどを過ごす。通常の学級にどれだけ入れるかは、本児の様子を見ながらあせらずに取り組んでいきたい。
- ・学習方法については、「自分で調べる」活動をしながら、タブレット端末やパソコンを使いながらまとめていく。提出しなければならないレポートはiPadを使ってでもできそう。
- ・単元によっては、教科担当の教員が支援学級に来て本児に指導できる体制を作れるようにしたい。
- ・ノートテイクの方法も含め、学び方の選択肢を広げられるようにする。

定期テスト（評価につながるテスト）について・・・書く量が大幅に増える

- ・別室で行うことについては、了解されている。
- ・どのような方法であれば、本児の持つ力をしっかりと引き出せるのかを、入学前から校内でも協議し、本児とのかかわりの中で、一緒に見つけていきたい。
- ・タイピング等がまだ十分でないので、キーボードの活用や入力方式の検討も含め、本児にとって、手書きの代替といえるような出力方法を身につけさせる。

将来の進路について考える

2歳年上の兄が進路選択に向けて動き出している。兄弟で高等専修学校や単位制高校、私立高校などのオープンスクールに兄弟で参加して、進路を意識してほしい。その目標にあわせて、自分なりの学びの方法を身につけてほしい。